私の探鳥地（２４）（野鳥だより 92 号 1993 年 6 月）

藻岩山（札幌市南区）

山 本　一

札幌市藻岩山の登山口の一つは、ロープウエー線の慈啓会バス停から 100m のところです。この山の北東の森は天然記念物となっています。わかり易くいえば、慈啓会ルートの登山道の周辺の森ということになると思います。バス停から 5 分も歩くと 4 月の中旬には、ウグイスの囀りも聞えるという自然の豊かな山です。

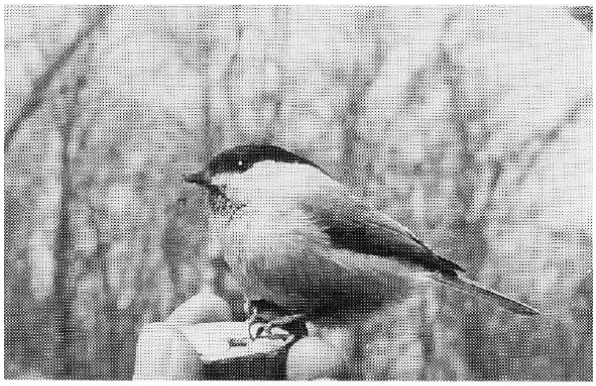
夏鳥のオオルリ、キビタキも渡来し、その美しさに私などは固唾を呑むばかり。語彙の豊かな女性は双眼鏡を覗いて「し・あ・わ・せ！」と代弁してくれます。キビタキの玉を転がすような囀りの期間も、永く楽しみです。

神秘の鳥のクマゲラの声も聞えます。運がよければ姿も見えます。エゾライチョウを、自然歩道を歩いていて見たという人が私の他に何人もいます。天敵であるキタキツネが近年へったようですが、そのせいかもしれません。

冬の餌場の豚の脂身には、ケラの類やカラ類がよく集り好んで啄む様子が近くで見られるので、皆様に書ばれます。

1988 年のクリスマスの日に、登山者が小動物に餌を与えようとしているのに深い感動を覚え、私もこれに見習って餌場を作りました。餌を啄む野鳥が可愛らしく、給餌に努めているうちに野鳥とすっかり仲良しになりました。

ハシブトガラが「リフト台跡」で私の手乗りになったのは、89 年 4 月 25 日です。その後に誰の手のひらの落花生の微粉末でも、ハシブトガラが手指に掴まったまま続けて啄むようになるまでには、ちょうど 2 年たっています。ヒガラがこのように手乗りになるには、3 年余り経っています。



ハシブトガラ

現在の手乗りの場所は「馬の背」です。ここに初めて餌場を作ったのは 89 年 11 月 21 日です。目立つように赤いリソゴを吊しまし

たが、それを見付けて毎日野鳥が集るようになったのは 18 日後の 12 月 9 日からでした。

餌入れの中が空になっていれば、野鳥が集る気配がなくても一年中餌を補給してきました。餌場を完全に撤去してしまうと、再開したときに鳥が見付けにくいことと、天候その他の事情で餌が採れない時のためです。

「馬の背」は自然歩道の分岐点でもあり、野鳥が円山と藻岩山を飛ぶ通路とも言われています。野鳥と登山者の出会いの多いところです。野鳥を認めた人が「可愛いいね！」とかいう呼掛け・指差しなどの動作・多くの人が、しばしば餌を差入れするのを野鳥はちゃんと見ていて、人の気持が野鳥に通じている。それで手乗りになるのだと思っています。